



発行日：令和3年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第12回川部会まとめの会を開催しました！

12月22日（火）に第12回川部会まとめの会を新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。まとめの会では、今年度の活動のふりかえり、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。

日時：令和2年12月22日（火）14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
参加者：16名（内オンライン参加3名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 今年度のふりかえりについて

今年度は3回のWGを実施し、設定した3つのテーマについて以下の活動を行いました。

◆本川モデル

土砂の流れによる河床形態の仕組みについて、名城大学溝口教授に講義していただき、矢作川本川の砂河床の状況を現地視察しました。

川の望ましい像に関する意見交換では、河川管理者目線、住民目線、自然目線から意見を出し合い、川の持つ多様性について話し合いました。また、総合的な土砂管理手法について情報共有を行いました。

他部会への発信として、次年度開催予定のバスツアーについて、阿摺ダム、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川のバスツアーによる視察を計画しました。

◆支川モデル

矢作川水系の河川情報の集積として、籠川の魚道整備状況について意見交換を行いました。また、籠川にて川沿いウォークを実施し、籠川と矢作川の水生生物の生息・生育特性、籠川の整備状況と環境の変化、砂州形成の仕組みなどについて話し合いました。

◆地域連携モデル

10年誌の作成状況について情報共有を行いました。また、市民部会が計画しているマイクロプラスチックとネオニコチノイドに関する勉強会について、情報共有を行いました。これらから、ごみ問題に関する情報の共有を広げていくことについて話し合いました。

2. 次年度に向けた目標（活動計画）設定について

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。話し合いで出た主な意見や提案は以下の通りです。

- ・ 流域圏を意識し、次年度は水田やまちなどに目を向けた幅広い取り組みを推進したい。
- ・ 川部会が抱える課題である「他部会への発信」をもっと広くとらえ、「社会への発信」を目指していきたい。
- ・ 「川の望ましい像」は、水・土砂・地形からのアプローチ、生き物や人間の視点からのアプローチで検討していくとよい。
- ・ 来年度の本川モデルでは、親水面や安全面も含めた人の視点を加えた川の望ましい像を検討していきたい。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度のふりかえり・次年度に向けての目標(活動計画)設定について

- ・矢作川は川の維持・管理に多くの人に関わっており、人の管理により今の景観が創られている。籠川の景観についても、人の管理により創り出したものだとすることを強調してもよいと思う。(内田)
- ・地域連携を「地先の問題」に入れるのは適切か。(光岡)
 - ▶ 大切なのは、川部会・海部会・山部会の3部会の連携という点だと考えている。(内田)
 - ▶ 当初の「地先モデル」は、例えば汜濫原などの、川と川沿いと横へのつながりを考えていた。(中田)
 - ▶ これまでは、川の水を利用している農業や企業などとはあまり交流がなかった。(高橋)
 - ▶ 将来的には、川と川沿いの農業、流域の農業や産業とつながっていることを踏まえて、「地先」の対象を広げていくことも検討していきたい。(内田)
 - ▶ 流域圏というのを考えると、流域が集まっている範囲と、流域が影響を及ぼしている範囲があり、川部会としてどこまでを対象としていくか、検討する必要がある。話し合いの対象範囲を広げすぎても大変だが、山・海部会との連携や市民部会との連携など、その時々で範囲をコントロールしていけばよい(鷺見)
 - ▶ 矢作川流域から「流域圏」という視点になってきていることを踏まえつつ、次年度からもう少し幅広い取り組みを進めていくことを検討する。(内田)
- ・「地先の問題」というと、川に接している地域の問題という感じになり、視点が狭くなる心配がある。(内田)
 - ▶ 海や山も含めての流域圏であることから、流域圏の連携モデルという視点がよいと思う。(鷺見)
 - ▶ 「地先の問題」を「流域圏の問題」とするほうがよい。山部会と海部会の議論から漏れてしまうところが中流域を中心に広くあり、そのあたりの問題を川部会で議論できればよい。(内田)
- ・安城市では、川への負担を軽減するための取り組みの一つとして、水田貯留を進めている。川と農業はつながっていることなど、川だけではなくその周りにも目を向けていくことは、よいことだと思う。(神谷)
 - ▶ 水田貯留は、ゲリラ豪雨など一時的に地域が冠水してしまうような災害への対策としても有効である。(鷺見)
 - ▶ 冬場に水田に水を張ることは、生き物環境や地下水環境など環境面での話にもつながる。(鷺見)
- ・生き物などの環境に関しては、生態系ネットワークが安城市や豊田市でよく活動している。このような関係から流域圏の環境を考えていけたら全国的なモデルになると思う。(高橋)
- ・議論してきたものについて、たとえば農業団体や地域へ川部会、または懇談会として発信していけるとよい。(光岡)
 - ▶ 生態系ネットワークと連携できれば、広報の幅が広がると思う。(高橋)
 - ▶ 生態系ネットワークと流域圏懇談会が情報交換できれば、いろいろな面で有効だと思う。来年度以降の取り組みとして加えていきたい。(内田)
 - ▶ 川部会が抱える課題である「他部会への発信」を広くとらえ、「社会への発信」を目指していきたい。(内田)
- ・置き土実験に関する情報共有について、次年度の予定を知りたい。(内田)
 - ▶ 来年の春あたりでの実施で関係機関から了解を得ている。(事務局)
- ・「川の安全」という視点も、川部会として来年度以降のテーマになるのではないかと。(鷺見)
 - ▶ 安全面における、人々と川の関係というのは、今後川部会として取り上げてほしいテーマと思う。(内田)
 - ▶ 矢作川沿いの池島公園は、水難事故が多いエリアとして注目されている。(中園)
 - ▶ 場所に応じて、安全を確保するエリア、親水性を高めるエリアなどを具体化することは必要である。(光岡)
 - ▶ 親水面や安全面などを整備できれば、子どもたちが遊べる川になると思う。(高橋)
 - ▶ 「川の望ましい像」は、水・土砂・地形からのアプローチ、生き物や人間の視点からのアプローチで検討していくとよい。(鷺見)
- ・来年度の本川モデルでは、今年度実施した土砂や川の形という議論を受けて、人間の視点などを加えた川の望ましい像を検討していきたい。(内田)

●その他連絡事項

- ・12月26・27日に開催される「ゆく川 くる川 川談義」に矢作川流域圏懇談会も参加している。各部会の座長の部会説明を入れた動画を提出しており、12月26日に配信される。矢作川流域圏懇談会の活動が外部へ発信される取り組みであり、今年度の一つの成果となる。(事務局)

今後の予定

■第10回全体会議

日時：令和3年2月19日(金) 13:30~15:30



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

